

I はじめに

糸魚川市教育研究会では、毎年、小・中学校の会員を対象に授業公開中心の一斉研修を実施している。今年度は11月16日に行われた。国語部は、糸魚川市立能生中学校を会場とし、授業公開による研究授業・協議会と併せて、個人研修である授業実践レポートを発表する研修会を行った。

II 研修テーマ

「言語活動を核として思考表現を促す国語科学習」

III 研修内容

1 授業公開一斉研修

研究授業は、研修テーマに沿って言語活用力、思考力、表現力を高める授業の進め方、指導の工夫等に視点をあて、能生中学校の渡辺涼子教諭が中学2年生を対象に研究授業の公開を行った。

- (1) 単元名 生きる姿 「走れメロス」(国語2 光村図書)
- (2) 指導者 上越教育事務所 学校支援第2課 中林郁郎指導主事
- (3) 主な授業内容

はじめに作品の通読を行い、生徒の感想や意見、疑問等を確認。メロスの行動の是非を投げかけることで、生徒自身の価値判断を促し作品を見直す。そのことで表現に意識的に注目させ、本文をより深く読み取ることができると考えた。そのため、思考力・表現力を高めるための工夫として、言語活動を生かしたディベートを取り入れた学習を行った。論題は生徒が設定し、論題A「メロスの行動に正義はある。是か非か」、論題B「これからの時代に求められているのはどちらか」、論題C「作品の山場はどこか」の3つの視点により論戦を展開した。発表者は、聞き手に納得させるための根拠や裏付けに努め、本文の叙述に即した資料や心情曲線図を提示するなど様々な工夫がみられた。ディベートを通じた学習活動が、言語活用力、思考力、表現力を高める授業に有効的であるとの声が参会者から多く寄せられた。



2 個人研修

研修テーマに沿って、各部員が授業実践を行いレポートにして一斉研修日に持ち寄り、ファイルに集約した。各自のレポートをもとにグループ分けし、発表の後に協議を行った。その結果、言語活動を生かし、思考力・表現力を促す実践内容について授業実践の共有化が図られた。

3 指導内容(指導者の資料参照)

- (1) 言語活動の充実を図るためのポイント1「各教科において言語活動を充実」、ポイント2「思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実」がある。取り組む必要のある学習活動として①体験から感じ取ったことを表現する。②事実を正確に理解し伝達する。③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。④情報を分析・評価し、論述する。⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
- (2) 言語の役割を踏まえた言語活動の充実のためのポイント1「事実等を理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること」ポイント2「事実などを解釈し説明するとともに互いの考えを伝え合うこと」で、自分の考えや集団の考えを発展させることである。

IV おわりに

集録したレポートに、指導者の資料、研究授業の指導案も加え、冊子として市内の全小・中学校に配布した。今後とも国語部の研修を積み重ね、市内全体の国語科教育における指導力向上、実践力向上に努めていきたい。